

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

同族がすべて悪いわけではない 三品 和広 (神戸大学大学院教授)

1. 徳川幕府ではないし、上場企業で同族経営など前近代的だ。ただ、同族企業でも、パフォーマンスのいい会社はある。例えば、ロート製菓は山田家が四代目に入ってもうまくやっている。一律に否定すると日本は損をする。同じ同族企業でも、第二世代で違いが出る。幼少期から親の家業を手伝ったり、創業者の苦楽を目の当たりにした人は、社員では積めない経験をベースに、いい経営をする傾向が目立つ。
2. ユニ・チャームがいい例であり、高原家の二代目は健闘している。大和ハウス工業や日本ハムは、いったん第二世代に経営を譲ったが、逆に創業者の目の黒いうちに、同族経営を断ち切ったのがよかった。うまくいかないのは、家業が成功した後、恵まれた環境で育った子息だ。
3. そういう第二世代や第三世代は、苦労を背負ってまで、必ずしも社長をやりたいわけではない。むしろ会社で厳しくしつけた社員のほうが、経営者向きに育つ可能性は高い。大和ハウス工業などはこの典型的なケース。要は、当該企業の継承すべき面と、捨てるべき面を、誰が最も冷徹に見ていたかではないか。今やビックカメラでさえワインを売っている時代だ。大塚家具も「家具以外に何が売れるか」を真剣に考えないと、戦略的に持たないのではないか。

(参考:「週刊東洋経済」2015年3月14日号)

経営者のための理念・哲学

一天地を開く

「修身教授録」を書いた森信三先生の言葉に次のようなものがあります。

1. 人間は他との比較をやめて、ひたすら、自己の職務に専念すれば、そこに一天地が開けるものである。それは人は、全的統一の立場に立てば、すべて外なき故に独立自全、全体が小宇宙となり、一天地となるが故である。
1. すべて人間というものは、たとえ頭脳は大した人ではなくても、その人が真に自覚さえすれば一個の天地を開くことができるものです。だから人間は、世間的な約束事などにはとらわれなくて、自分のしたいことを徹底的にやり抜くんです。そうすれば、そこに一つの火が点されます。

(参考:「致知」:2015年6月号)

人事・労務について

地方での採用を増やす

坂根 正弘 (コマツ相談役)

1. この国の東京への一極集中を進んだのは、中央集権的な行政システムなど様々な理由があるが、企業にも責任がある。多くの大企業が本社を東京に置き、そこで一括採用した人材を地方の拠点に振り分けることを長年にわたって続けてきたからだ。地方の学生にとっては就職が不利になるため、若者は東京に集まろうとする。結果として、地縁が薄い社会となってしまい、晩婚化や少子化を促進してしまった。
2. だからこそ、大企業はこれまで以上に地方での採用を増やすべきだ。だから東京一極集中の是正と地方創生にもつながる。コマツも本社機能の一部を、東京から石川県に移し、地縁のある社員を増やすことを目的として、主な地方拠点に大卒の採用枠を持たせている。

(参考:「日経ビジネス」2015年4月6日号)

古典に学ぶ

王さまと奴隷 (その1)

(解説) 周の国の尹という男は財産をふやすことばかり考えていた。尹家の使用人は、朝早くから夜おそくまで休む間もなくこき使われた。なかに一人の老僕がいた。からだがもういうことをきかなくなった。それなのにおかまいなしに使われた。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)